●小木津不動滝

高さ約12m幅約6m。滝の傍らには不動明王の石仏がある。NHK大河ドラマ「武蔵MUSASHI」のロケが行われたことも。

●いしくぼの滝

落差約6mの小さな滝。約5億年前の花崗岩が表出した場所でもある。手前にはもみじのトンネルがある。

●南展望台

小木津山自然公園の最高点。太平洋を臨む眺望は絶景。紅葉の時期にいしくぼの滝から南展望台に向かう道中はこれまた絶景。

●日高交流センター

日立市固有の桜の品種・日立紅寒が植えられている。原木は枯死したが、種は受け継がれ、毎年、2月中旬ごろに開花する。

●澳津説神社

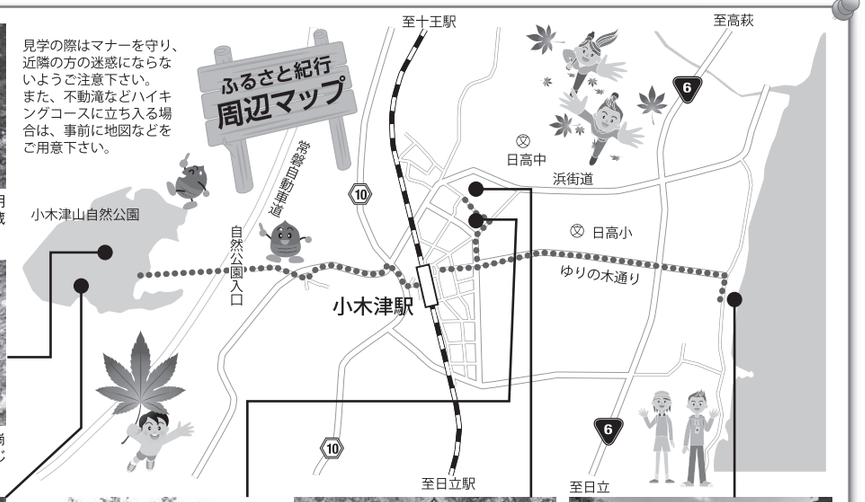
徳川光圀公の命を受けて小木津村の総鎮守に。祭神は事代主命（ことしろぬしのみこと）と宇賀御魂命（うかのみたまのみこと）。

●南静公園

太平洋を臨む公園。面積は約13700㎡。公園内は黒松が多く、樹齢100年を超えるものや、幹回りが2m以上の松もある。

ふるさと紀行 周辺マップ

見学の際はマナーを守り、近隣の方の迷惑にならないようご注意下さい。また、不動滝などハイキングコースに立ち入る場合は、事前に地図などをご用意下さい。



●散策コース●

まずは西口から小木津山自然公園を目指す。スイレンの池やアカマツの自然林、ナラ・クヌギの雑木林の遊歩道など、気軽に自然とふれあえる。公園内はあちこちでカンブリア紀の地層が見られ、いしくぼの滝でも約5億年前の地層を見ることができる。北、南の2つの展望台があり、太平洋を臨む眺望は素晴らしい。例年、11月中旬ごろになると、赤く染まったモミジが埋め尽くす遊歩道もあり、特別な気分を味わえる。高鈴県立自然公園ハイキングコースの一部でもあり、少し足を伸ばせば不動滝など名所もある。

東側には澳津説神社がある。天文13年（1544年）に京都伏見稲荷大社の分霊を勧請し、万治元年（1658年）に現在地に移転、明治16年に現在の社名となった。拝殿には36歌仙の絵馬がある。神社のすぐ近くにある日高交流センターには日立市固有の「日立紅寒桜」（登録品種名:日立紅寒）が植えられている。元々は小木津駅にあった原木の芽接ぎ第一号の貴重な桜だ。現在では、かみね公園やJR日立駅、多賀市民プラザでも見ることができ、広がりを見せている。

最後はゆりの木通りを通って南静公園へ。太平洋を臨む断崖にあり、黒松が立ち並ぶ公園で、川尻海岸や小木津浜海岸を臨むことができる。黒松と潮騒をじっくりと楽しもう。

●お問い合わせ／日立市産業経済部観光局観光物産課 ☎0294(22)3111(代)　●企画・制作／読売茨城広告社☎029(244)5555

Vol.91

駅からのふるさと紀行 JR常磐線

小木津（おぎつ）駅

日立（ひたち） | 十王（じゅうおう）

●次回は11月24日
「金上駅」を掲載予定です。

※イラストはイメージです。

小木津山自然公園

昭和46年に日立市民憩いの場所として開設された。総面積は65ヘクタール。森林浴を楽しむ散策が人気。バーベキューのための設備もある。

働く人と、世界を走る。

ISUZU

茨城いすゞ自動車株式会社

本社／〒310-0063 水戸市五軒町1-2-5 ☎029-225-1215(代)
https://www.ibaraki-isuzu.co.jp

広告

●昭和56年に完成した橋上駅舎（東口）。

●小木津山自然公園の玄関となる西口。駐輪場やタクシー乗り場がある。

●海側となる東口はロータリーが整備されている。

阿武隈山地が迫る西口は紅葉の名所 小木津山自然公園で秋を楽しむ

JR常磐線小木津駅は明治43年3月に開業した。昭和56年に現在の橋上駅舎が完成し、平成20年にはバリアフリー設備としてホームと改札、東口と西口にそれぞれエレベーターが設置された。発車メロディは『いつでも夢を』、『明日は咲こう花咲こう』など、地元出身の作曲家で国民栄誉賞も受賞した故・吉田正氏の楽曲が使用されている。

日立市は桜の名所として有名だが、約20年前に小木津駅構内の桜が新品種とわかり、市民公募により「日立紅寒桜」という愛称で親しまれている。

海と山に挟まれた地域。駅の東側には大きな工場があり、工都・日立の北の拠点を感じさせる。東口ロータリーと南静公園を結ぶゆりの木通りは、国道6号まで街路樹が並ぶ。西側は阿武隈山地が迫り、小木津山自然公園など、気軽に自然を楽しめる場所があるのがいい。